



本ばこ

ほん

— 新刊教材・図書紹介 —

しん かん きょうざい と しよしょうかい

ICTに強くなれば、授業がよりアクティブに！仕事より効率的に！

『日本語教師のためのTIPS 77 ② ICTの活用』

編著者：山田智久
へんちよしや やま た ともひさ

出版社：くろしお出版
しゅつぱんしゃ

URL: <http://www.9640.jp/xoops/>

発行年月：2012年8月
はつこうねんげつ ねん がつ

ISBN: 978-4874245644 判型・頁数：四六判 304頁 定価：1,680円(税込み)
はんけい ペンづう しろくばん ペー ていか えん ぜい



「ICT」「パワーポイント」「オンラインストレージ」…。皆さんはこれらの言葉を聞いて何のことか分かりますか。

日本語教育の現場で使っている教材や教具は、時代の変化にともなってどんどん変わってきました。以前なら、教師は黒板やホワイトボードに書きながら授業をしていましたが、最近では、プロジェクターにパワーポイントでスライドを示しながら授業をすることも珍しくありません。ICTとは、「Information and Communication Technology」の略で、日本語では「情報通信技術」と訳されています。具体的には、デジタル機器（コンピューターやデジタルカメラなど）、ウェブ上の情報（ウェブサイトやブログ）、コンピューターソフト（ワードやパワーポイントなど）を合わせて、このように呼んでいます。情報通信機器が発達した時代の教師には、言葉や教授法についての知識だけでなく、これらを使いこなす力も求められるようになってきています。

本書には、日本語教師が知っておくとよいICTの活用方法が書かれています。各チャプターのタイトルとTIPS*の数は以下のとおりです。

Chapter1	ICTの基本について学ぶためのTIPS	7
Chapter2	授業の準備と教材作成のためのTIPS	16
Chapter3	授業中にICTを活用するためのTIP	19
Chapter4	情報検索と情報整理のためのTIPS	14
Chapter5	日本語教育で使える便利なフリーソフト	6
Chapter6	パソコントラブルを解決するためのTIPS	9
Chapter7	ICTの可能性について考えるためのTIPS	6

▽こんな使い方もあったんだ！

ここではChapter3で取り上げられていた内容を2つ紹介します。デジタルカメラは、サイズが小さくなり値段も安くなったことから、普段から持ち歩いている人もいると思います。では、教室ではどのような活用ができるでしょうか。著者は、次のような使い方を紹介しています。

- ①撮影した作文を大きく写し、クラス全員で添削する。(TIPS29)
 - ②録画機能を利用して学習者のプレゼンテーションを記録し、パソコンで再生してクラス全体でコメントしあう。(TIPS30)
- デジタルカメラで撮るものと言えば風景や人物がすぐに浮かびますが、発想の転換をすると、教室でも活用することができるのです。機器の活用方法以外にも、パワーポイントを使って文型練習や変換練習をする方法、音声ファイルを使いやすく編集する方法、コンピューターソフトを使って効率よく成績管理をする方法などが紹介されています。コンピューターはあまり使ったことがないという人だけでなく、非常に詳しいという人にとっても参考になる実践的な内容になっていますので、自身のニーズや現場の状況に合わせて参照してください。

*TIPSとは「マニュアルに書かれていない、パソコン使用上の便利な技法」の意味（『大辞林 第3版』より）。本書では、パソコン使用に限らず、授業で使える「ワザ・コツ・豆知識」として紹介している。

TIPS 32 会話練習に動画をとり入れよう

学習者の考えの力を伸ばすには、どうすればよいのでしょうか。動画を使った考えの授業を見てみましょう。

私は、日本語教材DVDだけでなく、ドラマや映画、ドキュメンタリー、討論番組などをよく授業で使っています。その際に、ただ動画を見せるだけでなく、学習効果が低いので、必ず登場人物の発言を考える活動を組み込むようにしています。参考までに、動画を使った「考える」授業の一例を見てみましょう。対象者は、初級後半レベルの学習者8名で、使用した動画は「エリンが挑戦! にほんごです」の「19章 理由を話す」です。

- 1) 教材作成の時点で、学ばせたい言葉、文法項目を決めておく。ここでは、例として、「〜から、〜」の理由を話す項目とする。まずは、動画の該当箇所を文法起こしする。

めぐみ：どうしたの。急にバイトなんて。
さき：いいですよ。別に。
エリン：買いたいものがあるから始めたの？
さき：うん、まあ、そんなことかな。
めぐみ：バイトはめんどうだからいやだって言ってたじゃない。
- 2) 学習者に考えさせたい部分を下で囲みにして、学習者のプリントを作成する。

めぐみ：どうしたの。急にバイトなんて。
さき：いいですよ。別に。
エリン：から _____ ?
さき：うん、まあ、そんなことかな。
めぐみ：バイトはめんどうだからいやだって言ってたじゃない。

3) 授業では、プリントを渡さずに、動画を再生する。考えさせたい部分の手前で動画をストップして、「次に登場人物は、何と答えるか」を学習者に考えさせる。まずは個人で、次にグループで話し合い、考えを共有する。

4) プリントの渡し終わった状態で動画を再度再生する。考えさせたい部分で一時的に再生を止め、学習者は、プリントの前後の文脈を精読できるため、発話を予測しやすくなる。学習者から、いろいろな答えが出てくるが、この段階では、正解を認めるのではなく、なぜ、その答えが正しいと思うのかについて説明してもらうようにする。

5) 再度動画を最初から最後まで再生する。その際、空欄にしている下欄部分のみ再生を止め、動画を再生するようにする。音声を消す際は、パソコンのコンピュータ機能を使ったり、スピーカーの音量調節ダイヤルで行ったりし、学習者は、登場人物の動きから発話を読み取ろうとし、盛り上がる活動となる。

6) 最終的に、動画を最初から最後まで再生し、文法項目の解説をする。正解以外の発話で、可能なものは何かを一語に考えるのもよい。

このように、ヒントを段階的に出していくことで、学習者の頭の中には、前後の文脈を意識した「考える力」が養われていきます。そう

国際交流基金制作のDVD教材『エリンが挑戦! にほんごできます。』も紹介されています。

このコーナーの担当者：押尾 和美 / 日本語国際センター専任講師